

わ

が

街

わ

が

故

郷

日本精工株式会社長野支社 上田営業所と 上田市周辺のご紹介

1. 日本精工(株)長野支社 上田営業所の 紹介

日本精工(株)長野支社 上田営業所は、今から20年以上前より（当時は駐在）事務所を構え、長野県東部・北部を中心に活動しております。

現在では環境対応関連（リチウムイオン電池や、HV車用部品）を製造するメーカーもあり注目されております。また現在の事務所は2年前に移転し、目の前には旧上田藩主の屋敷跡があり、春には桜が咲き誇り、ウグイスがさえずり、堀には餌付けされた亀が人影を見ると寄ってきたりと、昨今の厳しい状況をひとときですが癒してくれるような環境となっております。



旧上田藩主の屋敷跡

2. 長野県上田市について

上田市は長野県の中央からやや東北の所に位置し“日本の真ん中”とも呼ばれています。市域は上田盆地全体に広がっております。市中心部には千曲川があり、市を二分するように横断

しています。

人口は長野市、松本市に次ぐ長野県3位で、3年前には周辺の3町村と合併して16万人を超え、長野県東部の中核都市となっています。

また北部には菅平高原を中心とした、四阿山・根子岳のほか、烏帽子岳などの2000m級の山が連なり、南部には美ヶ原高原を中心とした王ヶ頭、物見石山、武石峰などの2000m前後の山があります。菅平高原では真夏の平均気温19.6℃と爽やかな気候の中、全国からラグビーやサッカーなどの強豪チームが合宿に訪れています。

夏のラグビー合宿の歴史は昭和6年の法政大学に始まり、翌年から早稲田大学が訪れるようになり、大学ラグビーのメッカになっています。

主な産業は、ぶどう・りんごなどの果樹栽培の他、古くは養蚕業が盛んで、明治時代には日本の主力産業であった繭(まゆ)の重要な供給地でした。現在は電気機器、自動車部品などの生産が盛んになっています。

3. 上田市の歴史について

上田市の歴史は古く、奈良時代には信濃国分寺・国分尼寺が建立され、最初の国府が置かれたとの説があります。鎌倉時代には執権・北条氏一族である塩田北条氏が信濃守護として、三代60年間にわたって治めました。戦国時代に

は真田昌幸が上田城を築き、当時広まり始めた平城形式で、千曲川の分流である尼ヶ淵に面していたので、築城当初は“尼ヶ淵城”とも呼ばれました。

上田城は二度の実戦経験を持つ戦歴ある名城です。天正13年(1585)徳川家康率いる八千の軍勢を、真田勢わずか二千余りで迎え撃ち、奇襲作戦で討ち破りました。二度目は慶長5年(1600)関ヶ原へ向かう三万二千の徳川秀忠軍を足止めし、そのため秀忠軍が天下分け目の関ヶ原の合戦に間に合わなかったことは有名です。

関ヶ原の合戦で真田家は、親子が分かれて東西両軍に参加しました。昌幸の次男・幸村(本名は信繁)は、大阪冬・夏の陣で徳川軍に命がけで挑み、苦汁をなめさせたことにより『真田、日本一の兵(つわもの)』と言われました。



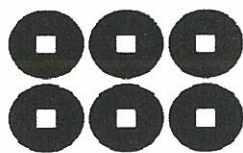
真田幸村像

また徳川軍に味方した長男・信之は上田藩の藩主となり、24年治めた後に松代藩(現在の長野市松代町)の藩主となり、上田を後にしています。その後、小諸から仙石忠政が上田に移り、仙石家は三代85年にわたって上田藩を治めました。

この間に現在残っている上田城が築かれました。最近では歴史好きの女性“歴女”の方の影響か、真田の家紋(六文銭)を多く目にするような気がします。この有名な六文銭は真田幸隆(真田幸村の祖父)が旗印に用いたのが始まり

とされ、その後、真田昌幸や真田信之ら子孫に受け継がれていきました。

ただ大阪の陣における豊臣方の真田幸村は終始“総赤に金線”の旗印を使用しており、これは徳川方についた本家の真田家(父・昌幸、長男・信之)に対する気遣いとされています。また真田氏は六文銭以外にも3種類の家紋を用いました。六文銭は戦時の色合いが濃い家紋であるため、真田氏は六文銭が使い難い場合においては、結び雁金(かりがね)などを用いました。時代が進むにつれ、次第に六文銭の使用が拡大したため、結び雁金の存在は薄くなっていきました。



別名：^{ろくもんぜん}六文銭
^{ろくもんれんぜん}六紋連銭



^{むす かりがね}結び雁金

4. 上田市の紹介

歴史上有名な場所が多い上田市ですが、その時代小説を広く大衆化させた直木賞作家・池波正太郎も真田一族の歴史に深い関心を抱き、数多くの作品を発表しております。その中でも真田昌幸・信之・幸村父子の活躍をテーマにした真田太平記は、真田ものの集大成といわれる作品です。

舞台となった上田市内には平成10年に『池波正太郎 真田太平記館』を開館し、戦国歴史浪漫 真田太平記の魅力について紹介しています。また美食家としても知られる池波正太郎が真田太平記の取材で、しばしば上田に来ては訪れた蕎麦屋(刀屋)などもあります。

その他現在では上田を舞台にした映画や、数々の撮影が行われています。最近では太平洋戦争

中の1943年10月16日に行われた野球『出陣学徒壮行 早慶戦』を描いた「ラストゲーム最後の早慶戦」(2008年8月公開)や、今年の8月に公開されたアニメ映画「サマーウォーズ」は上田が舞台となっており、実在する高校・企業が実名で登場しています。



池波正太郎 真田太平記念館

《上田市の主なイベント》

上田城千本桜まつり(4月中旬/夜はライトアップ)、上田祇園祭り(7月下旬)、信州上田大花火大会(8月上旬)は千曲川の河川敷で行われ、毎年10万人ほどの観客で賑わいます。



上田城千本桜まつり

《上田市の見所・観光スポット》

上田城跡公園: 真田氏の居城、上田城跡を核とした公園(旧二の丸)。本丸跡には歴代の城主を祀った神社(真田神社)があります。境内には古井戸があり、城外への抜け穴になっていたという伝説があります。樹齢100年のケヤキ並木をはじめ、約千本の桜など花と緑に囲まれ、ゆったりとした公園です。また三の丸にあった藩主居館跡には当時の藩主(松平氏)の屋敷門

と堀が残っています。現在は上田高校の敷地として利用され、門は学校の正門として使われています(上田営業所の目の前)。

真田氏館跡: 真田氏が上田城を築城する以前の居館跡で、現在は御屋敷公園として整備され、ツツジの名所となっています。また真田氏歴史館が隣接し、真田氏ゆかりの資料を見ることができます。

上田原古戦場: 天文17年(1548)武田信玄が、信濃北部の武将で北信の雄と呼ばれた村上義清との激戦を繰り広げ、生涯初の敗北を味わうことになった上田原合戦の舞台です。

信濃国分寺 三重塔: 奈良時代に建立されましたが、承平の乱で焼失後、室町時代に現在の場所へ再建されました。境内にある三重塔は現存する国分寺の塔の中では最古のもので、国の重要文化財に指定されています。



信濃国分寺 三重塔

別所温泉: 古くは『七久里の湯』と呼ばれ枕草子にも登場する信州最古の温泉です。北条氏が別院として使っていたことから、別所という名前がついたと言われています。別所温泉一帯は塩田平と呼ばれ、鎌倉時代から室町時代に作られた神社仏閣等が多く、そのためこの地域は『信州の鎌倉』と呼ばれています。

北向観音(きたむきかんのん): 正式には北向山常楽寺といい、別所温泉にある天台宗の寺院。

通常、寺院は南に向いていますが、ここは善光寺（長野市）と向き合っているから、とされ『裏善光寺』と呼ばれることもあります。善光寺が来世の利益、北向観音が現世の利益をもたらすということで、善光寺のみの参拝では“片参り”になってしまうと言われ、双方をお参りする風習となっています。また敷地内には国の重要文化財である石造多宝塔などがあります。

鹿教湯（かけゆ）温泉：昔、信心深い猟師が矢傷を負った鹿の後をつけたところ、鹿が水浴びをしてしばらくすると元気になって走り去った。不思議に思い近づいてみると、そこにはお湯が湧いていた。文殊菩薩が鹿に化身して猟師にお湯のありかを教えたといわれることから、鹿教湯の名の由来になったそうです。

美ヶ原高原美術館：1981年6月に箱根町にある箱根 彫刻の森美術館の姉妹館として開館。標高約2000mの牛伏山の東側斜面に広がる13万㎡という広大な敷地に多数の野外彫刻が常設展示されています。天気次第では雲海を望むこともできます。



美ヶ原高原美術館

無言館：NHKでも放送された美術館。第二次世界大戦中、志半ばで戦死した画学生たちの遺作、愛用品などを全国の戦没画学生の遺族を訪問し集めたものを展示しています。



無言館

このほかにも上田市周辺には歴史的名所や温泉が多く、千曲川の鮎釣りやスキー・ゴルフ等、季節ごとのレジャーも沢山あります。歴史好きな方は歴史探索で新しい発見があるかも知れません。温泉好きな方はあらかじめポイントを絞って、信州名物の蕎麦やお酒などと合わせて散策されるのも楽しいと思います。これからは紅葉の季節にもなります。ご家族やお友達と気分転換に来られてはいかがでしょうか。

（日本精工(株)長野支社 上田営業所 所長 米花 達也）